

巡歴

大和風物誌



高橋隆博
Takahashi Takahiro

関西大学出版部

〔表紙写真〕

- 若草山の山焼き (矢野達彦 撮影)
 - 薬師寺花会式 (後藤親郎 撮影)
- 〔裏表紙写真〕
- 薬師寺鬼追式 (後藤親郎 撮影)

巡歴 大和風物誌



高橋隆博

関西大学
出版部



9784873544854

ISBN978-4-87354-485-4
C0021 ¥1900E
定価(本体1,900円+税)



1920021019005

巡歴
大和風物誌

高橋隆博

関西大学
出版部

巡歴
大和風物誌

高橋隆博
Takabashi Takahiro

関西大学出版部

巡
歴

大
和
風
物
誌

高橋隆博
Takahashi Takahiro

はじめに

『大和路』（奈良交通の社内誌）に「大和の工芸」を書きはじめたのは、平成九年の新年号だった。数回で終えるつもりが、そのあと「伝統諸職」、さらに「歳時記」とつづけた。季刊とはいえ、安気なものとはいえず、思いのほか厄介であった。

現場には何度となく足を運び、ところかまわず聞き歩きをした。行事のはじまる時間や日にちをまちがえたことも二度や三度ではない。そんなときは、つぎの年までまたなければならず、おのれのうかつさを悔やんだところで、すべてはあとの祭り。「あつものに懲りて膾を吹く」どころか、作業工程の肝心なところを見逃し、ふたたびおたずねしては、先方をあきれさせたこともしばしばであった。

そんなことの繰り返しで、呻吟しつつも、連載は七年間にわたり、二八回におよんだ。いまは亡き恩師の有坂隆道先生（関西大学名誉教授）が、ご生前に「本にしてまとめなさい」とおすすめたこともあって、このたび、一冊にして上梓することにした。「国のまほ（真秀）ろば」奈良・大和には、伝統工芸や寺社の伝統行事、地域文化の特性をあらわす諸職がすぐれて多い。そのいずれもが奈良に「みやこ」があった時代の

美意識に、あるいは国家的な儀式に、また寺院と神社の成り立ちと信仰の発展に、さらには古典芸能の誕生に、そして手工業の成立に、つまり日本の文化的特質の醸成に根深いところでつながっている。いわば、日本文化の基層を表象する。

東大寺の「お水取り」といい、春日大社の「おん祭り」といい、そして「奈良墨」といい、そのはじまりは、はるか奈良時代に、あるいは平安時代にさかのぼり、しかも、いささかも停滞することなく、今日に息づいているのは奇跡的ですからある。これほど、かけがえのない伝統文化と文化遺産に恵まれたところは、ほかにはない。

「都」が京都に遷り、そして江戸・東京にかわり、それぞれが「みやこ」を謳歌し、いかに「みやこぶり」をひけらかそうが、また齒嚙みしたところで、奈良・大和が星霜をかさね、堆積してきた伝統にはとどかない。

いったい、伝統文化とはいかが、決して一朝一夕にしてはならない。当事者はもちろんのこと、それを支える周縁の多くの人びと、受容し育む環境、そして何よりも意識の継続、これらが紡ぎ合い、融合し、連綿として継承されてきた。その一つでも抜け落ちれば、たちまちにして瓦解してしまふ。

「職人の技と勘は、教えられるものではない」ように、技術や所作の継承は難儀だし、儀式と行事の古今伝授も、じつはまことに悩ましい。ひとたび途絶すれば、ふたたび元にはもどらない。いかにも鞏固に見える伝統文化と文化遺産の脆さがそこにある。

表題の「大和風物誌」について、ひとこと許されたい。

今年初秋の一日、作家の辻原登さんに親しくお目にかかり、夕食にまでおよんだ。辻原さんの阿倍仲麻呂を書いた作品『飛べ麒麟』は、「月がのぼったので海が匂った」と震えをおぼえる詩文にはじまる。それだけではない。読み終えたあとに、この作家の壮大にして豊潤な詩想に襲われた。

当方といえ、詩情のひとひらすらも持ちあわせず、ほとんど埒の外。そんなわけもあって、「風物詩」ではなく「風物誌」とした次第。

希わくは、「日本のふるさと」奈良・大和路を訪れ、旅される方がたの、邪魔しないほどの伴走者たらんことを

平成二十一年 錦秋

高橋隆博

目次

はじめに

一 美術工芸

赤膚焼

赤膚焼の開窯／住吉屋平蔵／奥田木白／木白と五条山

富本憲吉の陶芸

陶芸への道／模様から模様をつくらず／祖師谷窯／金銀彩

奈良漆器

奈良博覧会／正倉院宝物の調査／奈良漆器の成立／模造の意味／吉田三兄弟

奈良一刀彫

若宮祭と奈良人形／田楽と奈良人形／岡野松寿家／森川杜園／杜園の芸術

奈良墨

墨と二諦坊／興福寺の墨／墨屋／古梅園／墨型／墨づくり

吉野の和紙

紙漉きの里／奈良紙／吉野紙と国栖紙／対立／細る命脈

高山の茶筌

南都と茶の湯／富雄川流域／鷹山氏と茶筌／「二子相伝」

61

51

41

31

21

11

3

i

奈良団扇

団扇まき／団扇のおこり／奈良団扇／透かし彫り団扇

71

二 伝 統 諸 職

奈良晒

奈良の晒／最上は南都／傾く晒業／石打綿

83

南都の酒

中世の名酒／多聞院の酒／霰酒と奈良漬／諸白／傾く奈良酒造

93

三輪素麺

七夕と素麺／索餅と素麺／三輪と素麺／糸のごとし

103

郡山の金魚

大和郡山と金魚／中国渡来の金魚／高まる飼育熱／名産地郡山

113

森野旧薬園

城下町松山／森野藤助／森野薬草園／薬の大宇陀

123

吉野漆と漆掻き

アジアと漆／南都の漆職人／吉野漆／吉野の漆掻き

133

大和木綿と大和緋

大和の綿作／郡山の繰り綿／大和緋／箱本館紺屋

143

大和の薬と売薬

薬どころ大和／西大寺と豊心丹／豊心丹をめぐる争い／売薬業者

153

三 伝 統 行 事

- 東大寺お水取り
山焼き／二月堂／実忠和尚／青衣の女人／若狭井
165
- 西大寺の大茶盛
春の茶宴／茶盛／穀尊上人と茶／茶席案内
175
- 薪御能
野外能／大和と猿楽／薪御能／復興「薪御能」
185
- 鹿の角切り
三社信仰／大垣廻し／角切り／鹿の愛護
195
- 春日若宮おん祭り
おん祭り／若宮社／「おみゆき」／お渡り式
205
- 薬師寺花会式
春つげる声明／花より団子／薬師悔過／鬼追い式
215
- 当麻寺の練供養
当麻寺の創建／曼荼羅堂と浄土信仰／中将姫と当麻曼荼羅／練供養
225
- 奈良豆比古神社の翁舞
奈良阪の古社／翁舞の由来／翁舞／奈良豆比古神社と春日神社
235
- 法隆寺の修正会と鬼追い式
修正会／西円堂の修二会／最古の追儺会／鬼追い式
245
- 矢田寺の練供養
矢田の地藏さん／二本尊の交替／矢田地蔵縁起絵／地獄からもどる
255

四 近代奈良の美術

蔵王堂の蛙飛び

役小角／金の御岳／蛙、人にもどる／蛙になった男／奥田の蓮切り

265

猿沢池と采女祭

南都八景／興福寺の花園／猿沢池の龍／采女祭り

275

明治の開封と奈良博覧会

廃仏毀釈と古器旧物／明治五年の開封／東大寺と奈良博覧会／正倉院宝物の初公開

287

奈良の漆芸

中世の漆師／温古社／創作漆芸への道

301

奈良の作家たち

吉田立齋（一八六七～一九三五）／谷中安規（一八九七～一九四六）／浜田葆光（一八八六～一九四七）

309

普門 暁（一八九六～一九七二）／中沢弘光（一八七四～一九六四）／山下繁雄（一八八三～一九五八）

富本憲吉

作陶の心／模様／富本憲吉の灯影／新出の金銀彩初期作品／心象風景

325

米国から里帰りの金銀彩作品

あとがき

347